

令和5年3月30日、西牧大使は、ムイニヤングエ保健・社会サービス省副大臣、ナンゴオンベ同省次官、デバアシヤ・オハングウェナ州知事及びセイゴ＝モーゼス当地 WHO 代表とともに、令和3年度補正予算案件「ナミビアのいくつかの州における女性及び子どもの栄養・保健状況への複合的緊急事態の緩和（供与額750,000米ドル）」に係る引渡式に出席しスピーチをしました。

その後の現場視察では、プロジェクトで研修を受けた保健師の活動や、供与した機材（栄養状況を評価するための測定器具や、村落の住民に対する栄養・保健指導に使用する教材等）の使用状況を視察しました。



式典でスピーチを行う西牧大使と式典会場の様子
(写真右手前から、西牧大使、保健副大臣、州知事(その向かいは当地 WHO 代表))



現場視察では、プロジェクトで研修を受けた保健師による村落巡回保健指導の様子が再現されました。



プロジェクトで研修を受けた保健師が子どもの栄養状態を評価する様子



(同上)体重計には日本の支援を示す日の丸ステッカーが貼られている



エンゲラ公立病院・小児病棟の様子(今回のプロジェクトで発見された重度の栄養失調児が治療を受けている)



日本政府から同病院に供与された身長計(左)、新生児用体重計(右上)、成人用体重計(右下)



写真左から、裨益者宅を視察する西牧大使、保健副大臣、当地 WHO 代表（トタン屋根の住居は非常に高温となる）



裨益者家族と交流した視察団一行

（村落を巡回する保健師は、栄養指導のみならず基本的な衛生指導も実施して住民の健康管理に貢献している。）